かるちゃ〜ナビ

ザ・見遊(みゅ〜)じあむ

重要文化財 旧杉山家住宅（富田林市）

……22

江戸時代の宗教都市の町なみがクッキリと残っている寺内町

今に残る寺内(じない)町の町並み

富田林市役所から東へ5分も歩くと、江戸時代の寺内町の町並みにタイムスリップします。寺内町とは、真宗のお寺を中心につくられた宗教自治都市で、富田林では永禄年間（1559年ごろ）、興正寺別院を中心に南北300メートル、東西400メートルの範囲に、周囲を堀や土塁を固め、町割りは碁盤目状。住民の代表である「8人衆」の合議制で運営されていました。

寺内町には現在も多くの旧家が残っていますが、旧杉山家住宅は、その当時から現在まで続く旧家のひとつで、唯一公開されている家屋です。代々造り酒屋を営んできました。近世18世紀初頭の豪壮な大規模商家を復元したもので、国の重要文化財の指定を受けています。母屋は城郭を思わせる豪壮な造りで、農家型の広い土間と美麗な座敷が特徴です。とくに、大床の間には狩野派の絵師による障壁画が描かれ、数奇屋風の奥座敷、茶室など見どころがたくさんあります。

明治時代、堺の与謝野晶子らとともに活躍した歌人の石上露子（本名は杉山タカ）はこの杉山家の一族で、蔵にはその遺品が展示されています。

ミュージアムメモ

▶所在地／富田林市富田林町▶問い合わせ電話／0721-25-1000教育委員会文化財課▶交通／近鉄富田林駅または富田林西口駅下車、徒歩10分▶入館料／大人400円、小・中学生200円▶開館時間／10時〜17時（11月から3月は16時まで）▶休館日／毎週月曜日（祝日の場合は翌日が休館日）、年末年始

このシネマがえいが

ドルフィンブルー　フジ、もういちど宙(そら)へ

人工尾びれでイルカの再生

原因不明の病気で尾びれを切除した水族館の人気者、バンドウイルカのフジに再び泳ぐ力を与えるため、新しく赴任してきた獣医が奔走します。バンドウイルカと格闘し、水族館の職員たちともトラブルが起きますが、さまざまな壁にぶつかり悩みながらも成長していく若い獣医の植村一也。東京に残してきた恋人のことも気がかりです。

「フジを助けたいんです！　もういちど泳がせてあげたいんです」沖縄の「美(ちゅ)ら海水族館」で起った出来事をもとにして、人間とイルカの交流、水族館に働く仲間のきずな、人口尾びれを開発する企業の技術者たちを描きます。沖縄「美ら海水族館」で行われた、世界初の「人工尾びれ再生プロジェクト」という実際の出来事が原案になっています。同水族館での1か月にわたるロケと、本物のバンドウイルカのフジの出演がリアリティーを与えています。

主演は松山ケンイチ。恋人役にモデルの西山茉希、作品が映画デビューとなる15歳の新人・高畑充希などど、フレッシュな顔ぶれが集合しています。水族館の館長には山崎努がなり、脇を引き締めています。7月7日から夏休みロードショウ。家族そろってどうぞ。

摂津 河内 和泉 おおさか三国誌

水間寺と「お夏清十郎」

……22（貝塚市）

南海本線貝塚駅から水間鉄道に乗って終着駅の水間駅に。駅舎がユニークで、お堂のカタチです。駅から10分で、「新西国四番札所」の水間寺です。

行基が744年（天平16）に滝の傍に堂を建てたのが水間寺の創始と伝えられています。1585年（天正13）に秀吉の紀州攻めのさいに壊滅的な打撃を受けましたが、岸和田城主の岡部氏の保護により再建され、現在に至っています。

水間寺には山門がなく、小川に架かる厄除け橋を渡ると開放的な広い境内です。境内の三重塔は大阪府下唯一の現存するもので、本堂は府下最大級の大きさです。

三重塔と本堂が広い境内にすっきりと建っている水間寺

水間寺の境内の一角に「お夏清十郎」の墓がありました。お夏・清十郎と言えば、井原西鶴の浮世草紙『好色五人女』（1686年刊）での物語が知られています。西鶴の物語は当時、播州姫路城下で起きた事件を題材にした悲恋もので、二人の墓も姫路市内にあり、姫路市の観光スポットのひとつになっています。

水間寺のそれは、どうも別人のようです。墓の碑文では、時代は鎌倉末期から南北朝時代。天皇の勅使として寺を訪れた山名清十郎と、土地の豪農の娘、お夏が愛染明王に祈願し、身分の上下を乗り越え、恋を成就させたと伝えています。墓の前の花立てには、映画『お夏清十郎』（1936年）で共演した往年のスター、林長二郎（長谷川一夫）と田中絹代の名が刻まれていました。伝説の人物は異なっても、映画の宣伝をかねて訪れたのでしょうか。

大阪の戦跡を歩く 第21歩

大阪城の戦争遺跡②

砲兵工廠(こうしょう)の水門跡

アーチ型の水門が今も残っています

東洋一といわれた大阪砲兵工廠。今の大阪城公園の東側一体が一大兵器工場でした。1870年から順次工場が作られていきましたが、設立当時の砲兵工廠は、材料の搬入や製品の輸送を水運に頼っていました。そのため、船が工場内に出入りできるように、北辺の寝屋川に水門を設け、スロープを利用して原材料の荷揚げ、大砲などの兵器の積み込みを行っていました。いま、大阪城ホールの北側からのぞくと水門が見えます。近年になって外観だけが修復されています。水門の隣では釣り人が竿を浮かべていました。

♡いまも心に響く 名詩・名歌・名語録

「にんげんをかえせ」
峠三吉

「ちちをかえせ／ははをかえせ／としよりをかえせ／こどもをかえせ／わたしをかえせ／わたしにつながる／にんげんをかえせ／にんげんの／にんげんのよのあるかぎり／くずれぬへいわを／へいわをかえせ」峠三吉（とうげさんきち）。1917年に生まれ、1953年没。詩人で本名は三吉（みつよし）。豊中市に生まれたが生後まもなく広島市に転居して被爆。被爆から8年後に36歳で病没。広島市平和公園、豊中市立岡町図書館に「にんげんをかえせ」の詩碑があります。

「耳」
私の耳は貝のから
海の響きをなつかしむ
ジャン・コクトー

ジャン・コクトー（フランス、1889年〜1963年）のもっとも有名なこの詩は、堀口大学訳『月下の一群』の中の「カンヌ」という詩の一小節です。コクトーは詩、小説、演劇、映画などさまざまなジャンルで才能を発揮しました。1936年には日本を訪れ、相撲を「バランスの芸術」と呼び、歌舞伎の六代目尾上菊五郎に会って握手したとき、白粉が剥げないように気を遣ったことが菊五郎を感心させました。コクトーには「青春には決して、安全な株を買ってはならない」の名句も。